

成績原簿、ご苦勞様でした

エピソード所見からの脱却を！

2018.07.13

No.25

校長 渡邊 幸二

過密スケジュールだった1学期が終わろうとしています。果たしてこういうカリキュラム(教育計画、日課表など)でよかったのか疑問が残った1学期でもあったと思います。改善できる点はすぐにでも改善し、学校教育目標の具現のために必要かどうかということに絞ってスクラップ&ビルドをしていかなければならないと考えています。ご意見をお聞かせください。

そんな中、成績原簿を出していただきました。ご苦勞様でした。特に所見を読んでいて、いくつか気になる点がありました。詳しく教務主任からの指導に委ねますが、2学期からの授業・指導に向け、頭の片隅においていただければと思います。



エピソード所見からの脱却を

私が一番違和感を感じたのはエピソードの羅列です。

国語では、「○○○」で、～をがんばり……にまとめました。算数の計算練習をがんばり、○○テストでは1回で合格しました。生活の「△△△△△△」では、～をよく観察し図と言葉で上手に記録しました。音楽では、……

いつも一生懸命掃除をし、学校をきれいにしていました。

のような所見です。学習の中で活動したこと、生活の中であったことなどだけを表記している所見です。よく観察していらっしゃると思うのですが、特に**学習のねらいとの整合性があまりない所見**もあるし、それに**どんな力(資質・能力)が付いたのか**、その行動に**どんな価値があると考えたのか**がよくわかりません。

エピソードだけ羅列されると、たとえば学習であれば、その活動をやること自体が目的になってしまい、本来のねらいが忘れられているのではないかという心配をします。その中身も、○年生のレベルとして適切な指導なのか、高度過ぎないか、あるいは低過ぎないか、そういうことをわかって指導していたのか不安になるのです。

◆国語では、「○○○」で、～について調べたことをキーワード(要点)にしてまとめ、それを段落構成に生かしながら作文を書きました。

◆算数の長さの学習では、すぐ定規で測るのではなく、おおよその長さの目安を持ちながら物の長さを測定するなど、長さの感覚を豊かにしている姿が見られました。

上記の所見が上等かどうかわかりません。現場で日々接しているみなさんであれば、もっとねらいに即した、観点到った所見を書けるとと思います。やはりその学習のねらいに照らし合わせた表記のほうがいいと思うのです。

そういう所見が書けるということは、**ねらいを常に意識した授業を心がけている**ということだと思います。

副詞のオンパレード

子どもたちのよさを見とり、何とかそのがんばりを保護者に伝えようと考えているんだらうなあとすることはわかります。でも、読み手からすると子どもの具体的ながんばりの姿は見えません。

- ・ 社会の〇〇では、～をしっかりと（ていねいに、きちんと……）まとめていました。
- ・ 図工の～では、きれいに作品を仕上げました。
- ・ どんどん、こつこつ、ぐんぐん……
- ・ 集中して、少しずつ、自分なりのペースで……



書き手のクセなのかもしれませんが、同じ副詞や似たような副詞がくり返し出てくる所見もあります。

それらを使わずに別の表現で表せれば、きっと具体的な子どものがんばりが見えてくるように思うのです。

たとえば……「図工の～では、色の配列や形をそろえる工夫を凝らした作品を仕上げ、友だちからもたくさんの拍手をもらっていました。」のようにしたら、単に「きれいに」と言うよりもリアルな映像となって子どもが読み手の頭に現れるように思います。

ただ、所見のスペースは限られていますので、その子どもらしさ、がんばりが見えるような特記すべき事項に絞って書くなどの工夫が必要になってくるでしょう。

総合的な学習の時間

前任校でも、マンネリ化した総合や活動ありきの総合だと、どうしてもエピソードだけの所見になってしまうようでした。自然体験学習の様子、あるいは酒田まつりに参加した活動の足跡のような所見になってしまうのは、総合がそういう行事・活動の下請けの学習になってしまっているからかもしれません。それは総合の本来の学習ではありません。



総合的な学習の時間本来のねらいを考え活動を仕組み、探究していくことで、その子どもにどんな力が付いたのかが具体的に書けるようになるのだと思います。子ども自身が課題を見つけ、それを自分なりの方法や仲間との協力などで解決していく営み(苦勞・苦悩・失敗・喜び・感動……)の中に総合本来の学びがあるのだと思います。子どもの成長が見えてくるのだと思います。ですから、活動の様子しか書き表せていないというのは、おそらくその学びが「総合的な学習の時間」にはなっていないということなんだと思うのです。浜田小の総合をどう創っていくか……考えなければならない時期に来ているような気がします。